

平成28年度の主な活動報告

- * 4月2日(土) 9:30~12:30 第1回役員会(以後、ほぼ毎月第1土曜日午前中) 新町会館第1会議室
- * 4月23日(土) 10:00~11:30 28年度谷川士清の会総会 於:津市図書館2F研究会議室
 - ①27年度決算・事業報告、28年度予算案及び行事計画案などの審議
 - ②役員改選(一部) ③その他 「まなびの葉」第5号刊行・会報「たまむしの森」第17号発行
- * 5月10日(火) 士清まつり 午前中は谷川神社奉賛会による式典やイベント。当会は午後実施。
 - 第1部(13:00~14:30) 講演会「漢方に魅せられて」



講師:金子幸夫先生(金子医院院長) 於:士清旧宅

士清の本業である町医者としての業績と実際に先生のお嬢さんのアトピー性皮膚炎を克服したという実績に基づいた映像付きのお話。東洋医学会の役員をなさっておられる現役の先生が、池村代表とのご縁で診療の時間の間隙を利用して特別お越し下さったため、先生に診てもらっていると思われる一般の方々もかなり見受けられた。(写真7p)

第2部(14:30~15:30) (イ)お茶会と(ロ)士清史跡案内(班別にイ・ロ交代)

- * 5月13日(金) 東京三重テラス「つデイ」への派遣。 池村・別所・佐野

谷川士清特集、津市側からは松尾篤氏。今回は新しくできた紙芝居「谷川士清」の実演も。語りは別所さん・補助佐野。

パネル展示の他「倭訓栞」や「日本書紀通證」の版本まで並べてあり、テープで士清の紹介もあった。

小野春菜さんも駆けつけてくださり、一緒に写真。

- * 士清勉強会(6月~第3土曜日午前中) 5回 10:00~11:30

於:津市図書館2F研究会議室

(「まなびの葉」第6号に各講師によるまとめ掲載)

第1回. 平成28年6月18日 第2回. 7月16日 第3回. 9月17日

『倭訓栞』に引用されている万葉歌について 講師:片山 武(会員・元金城学院大学教授)

5年目に入った基礎講座。『倭訓栞』中の言葉が士清の所見と一致しているものとそうでないものを指摘。

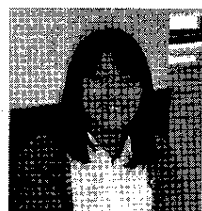
第4回. 平成28年11月19日(土)

『倭訓栞』の活字本二種について 講師:小野春菜会員(清泉女子大学大学院生)

卒業論文のテーマでもある課題を当時の新聞広告や研究者の批判を引用して説明。

(予算外だったが三澤先生の説も含む詳しい発表だった。引用は編集者抄)

『倭訓栞』……国語辞書。江戸時代の「三大辞書」の一つ。編者は谷川士清。出版は編者没後翌年の安永6年(1777)に始まり、明治20年(1887)7月に完了する。三編93巻82冊。明治31・32年(1898・1899)には、東京と岐阜から活字本が出版される。(平井亜門氏の文抄)



- ①『増補語林倭訓栞』(増補版とする)上・中・下巻三冊。井上頼圀・小杉楳郎の「語林」を上欄に増補し、巻末に『撮壊集』『林逸節用集』『桑家漢語抄』を付す。皇典講究所印刷部。

上巻=明治31年7月、中巻=同年10月、下巻=同年12月刊。名著刊行会からの復刻本(昭和43年版・平成2年版)がある。

- ②岐阜成美堂版『倭訓栞』(岐阜版とする)3冊。(のち合本1冊=明治36年9月(3版))

野村秋足による校訂も施されている岐阜成美堂蔵版。第1冊=明治31年8月、2=同年10月、3=明治32年1月刊。

第5回. 平成29年1月21日(土) 『倭訓栞』の外来語について

講師:山本浩子会員

『増補語林倭訓栞』使用。『倭訓栞』には多くの外来語が収められている。ポルトガル由来の「蛮語」として「かっぱ・びいどろ・ぼうとる・ちやるめら」などを、「らていん語」として「しゃぼん」を、また江戸時代の日本と通交のあったオランダ由来として「かっぱり・あんじゃべる・あねはじうらんとみん」等を挙げている。

三澤薫生教授(右写真)から学問的な発表には論の根拠を明らかにした方がよいとのアドバイスもあった。

- * 7月4日(月) 13:30~おもてなし三重観光ボランティア総会 参加(池村・奥田・谷口・別所・山本)

- * 7月23日(土) 親子洞津谷川塾(津市教委主催・士清の会共催) 於:谷川士清旧宅(写真7p)

小学生4~6年生とその保護者対象の講座。今年は紙芝居「士清さん」の上演(別所・馬場)後、お茶会と士清関係史跡案内(会員多数協力)

- * 7月31日(日) 津なぎさまちフェスタ 他の団体と共に紙芝居上演(池村・別所・奥田・山本・佐野)

